

2月19日(水)
平成26年(2014年)

発行所
〒112-0002
東京都文京区小石川5-4-4
コーティングメディア
編集印刷発行人 コーティングメディア
電話 東京 03 (5842) 8750 番
振替 00120-9-56573番
http://www.coatingmedia.com

Paint & Coatings Journal

ペイント&コーティング ジャーナル

WEBでブランドデザイン

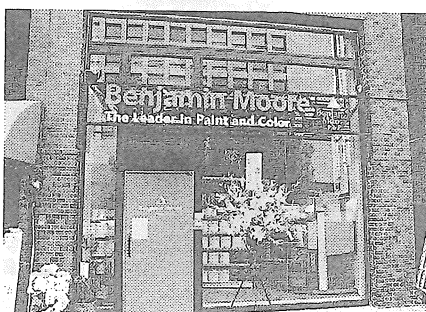
Benjamin Moore AOYAMA Flagship

米国ベンジャミンムーアペイント(以下BMペイント)の国内総輸入元、B.M.ジャパン(東京都、庄司園子社長)が一般消費者をターゲットとしたリテールストア「Benjamin Moore AOYAMA Flagship」をオープンさせたのは2010年の春。丸4年が経過した。

青山通りに面した路面店として出店、BMペイントの購買層をセグメントしたTVCMや媒体露出、店内のペイント体験コーナー・P-EXの設置、賃貸物件オーナーへのアプローチなどさまざまなプロモーションを展開。インテリアペイントがなかなか普及しない国内市場に風穴を開けるべく冒険的な活動を続けてきた。

商品販売や施工など事業そのものでは採算ベースを確保しているものの「認知度という点ではまだまだ満足できるレベルにはない。当店、商材、そして色を暮らしの場面に取り込む魅力をもっと多くの人に知らしめていかなければ」(プロモーションマネージャー・長張敏明氏=写真)と課題を認識している。

その一環としてホームページ(HP)のリニューアルを行った。もともとWEBマーケティングの専門家であ



る長張マネージャーが手掛けたもので「HPへのアクセス数は以前に比べて倍

に増加、滞在時間も1.5倍に伸びました」とリニューアル効果を説明する。

「HPを刷新する上で留意したのはBMペイントの世界観をどのように伝えるかということ。BMペイントを使うことで実現できるライフスタイル、楽しさや豊かさといったものを感じてもらえるWEBデザイン。3,500色のバリエーション、環境や人体にとっても親切で、初心者でも塗りやすいなど、BMペイントが持つ要素を見る人の心に届くように浮き上がらせた」と内容について語る。

国内の住宅の壁はほとんど白系のビニルクロスで覆われているが「それがいちばん汎用性があるからと疑問を抱くことなく多くの人が暮らしている。ただその中でも『色を楽しむ』『自分の手で好きな空間に変えられる』という情報を伝えると反応する人が必ずいる。そうした潜在層が興味を示し、行動につながるようBMペイントの世界観の中で表現した」Webページ。

一方、商品の販売に関しては、店頭での販売がコンスタントに流れている他、個人リノベーションに向けたR不動産の新サービス「toolbox」でも展開。WEBでは自社HPの他にネット通販最大手アマゾンでも取り扱いがスタート、販路が広がってきた。